

シャットワン資料

エクステリア外構工事や太陽光発電施設の砂利下に使用されているケースが多い

	シャットワン100g/m ²	シャットワン150g/m ²	シャットワン200g/m ²
色	グレイ	グレイ、緑	緑
幅	1000mm/2000mm	550mm/700mm/1000mm/2000mm	550mm/700mm/1000mm/2000mm
長さ	50m	50m	30m/50m
目付	100g/m ²	150g/m ²	200g/m ²
密度	0.28g/cm ³	0.3g/cm ³	0.4g/cm ³
遮光率	—	99%以上	99%以上
砂利下	◎	◎	◎
暴露耐久性	長期	長期	長期
暴露敷設	×	○	◎
暴露耐久性	適さない	3～5年程度	5～7年程度
飛来種子	無	有	有
埋土種子	無	無	有
栄養根	無	有	有
場面	埋土種子や栄養根の残存が無い新設の土地。 周辺に飛来種子の懸念が少なく、碎石(砂利)と路盤の土壌をセパレートしたい要望がある土地に推奨する。	埋土種子や栄養根がある程度処理した土地に有効。 路盤の土壌をセパレートしたい要望かつ、周辺に飛来種子の懸念がある土地に推奨する。	埋土種子や栄養根がある程度処理した土地に有効。 路盤の土壌をセパレートしたい要望かつ、周辺に飛来種子の懸念が高い土地に推奨する。
共通	いずれの場合も、雑草が過去発生している場合は、除草剤等で充分処理した後に敷設をすることを推奨する。スギナなどの地下茎(栄養根)が残存する場合は、シートと敷地境界線やコンクリート基礎と接する隅の箇所から発生することが予想されるため、しっかりと処理をすることを推奨する。また仮留めの目串(アンカー)の打設箇所から発生することもあるため、同様に処理もしくは、テープ等で打設箇所を補修する。 竹等のイネ科がある場合は、地下茎の侵入を抑制し、現場に残存する場合は、抜根処理を施す。		
施工	碎石(砂利等)で覆う場合は、目串(アンカー)で仮留めをし、その箇所はテープで張付け、シートを蓋をする。シート同士の重ねは、概ね10cmとする。雑草が残存するか旺盛がある場合は、接着材または、テープでシートを張合わせ、雑草の発生箇所を抑制する。 排水性の悪い路盤は、事前に排水性を良くし、飛来種子の発芽を極力抑制させることを推奨する。		
暴露耐久性	適さない	3～5年程度	5～7年程度

* 耐久性の数値は、保証値ではありません。また化成品は紫外線により劣化する。

☑紫外線の影響を受けて劣化する防草シートは、砂利下に敷設すると半永久的に防草効果を発揮することが出来る。150g・200g目付規格は暴露張りすることで約5年前後の耐久性を持つことが出来る(保証値ではない)周りの景観との馴染みや碎石の色によって種類を選別するケースも多々ある。

☑シャットワン150g/m²と200g/m²の違いは、200の方がより密度が高い為、雑草の残存度が高い場合は、推奨する。